

第6学年 道徳科学習指導案

令和7年2月8日(土) 1校時 2組
2校時 1組 3組

1 主題名 「理解し合うために」 B-(11)相互理解、寛容

2 ねらいと教材

(1) ねらい コートの使用を巡って、思いがすれ違う2人の姿などを通して、相手と理解し合うために大切な気持ちを考えさせ、相手の立場や気持ちなどを考え、互いに尊重し合ってよりよい関係を築こうとする心情を育てる。

(2) 教材 「昼休みのコートで」(道徳6 きみがいちばんひかるとき 光村図書出版)

3 学習指導過程

	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 □評価の視点(評価方法)
導入	1 誰かと分かり合えなくて悲しい気持ちになった経験を振り返る。 ○誰かと分かり合えなくて悲しい気持ちになったことはありますか。 ・一緒に遊ぼうとしたけれど、断られた。 ・一緒に帰れない理由を伝えたけど、その後けんかになった。 相手と分かり合うためには、どんな気持ちが大切なのだろう。	・休み時間や、第1学年から第5学年の出来事も想起させる。
展開	2 教材「昼休みのコートで」を読んで、話し合う。 ○お互い口を聞かない場面で、洋と光太はそれぞれどんな気持ちだったでしょう。 〈洋〉 ・一人でコートを半分も使っていて迷惑だ。 ・せっかく誘ってあげたのに。 〈光太〉 ・試合に向けて練習したいのに。 ・遊んでいる人たちにじゃまされたくない。 ◎洋は、どんな思いから、光太に「なんで練習しているのか、聞かせてくれよ。」と言ったのでしょうか。 ・光太の真剣な姿が気になる。 ・どうして一人で練習しているのかな。きっと何か理由があるんじゃないかな。 ・自分の思いを伝えたら、分かってもらえるかもしれない。 ○自分と違った考えに出合ったときに大切なことは、何でしょう。 ・相手がどうしてそう考えるのかを聞いてみる。 ・自分には、同じような経験がないかを考えてみる。 ・相手は、自分と違った考えをすることもあるということを理解しておく。 ○洋が光太の思いを理解できたのは、どのようなことに気付いたからだと思いますか。 ・光太にも理由があること。 ・自分にも同じような経験があること。	・洋と光太の気持ちを分けて板書し、それぞれの思いを比較できるようにすることで、2人の気持ちがどのようにすれ違っているのかが分かるようにする。 ・どうして、そのような思いでいるのか、その背景にある気持ちについて考えられるようにする。 ・グループで話し合う際に、必要であれば役割演技を取り入れる。演じたり、それを見たりして、新たに気付いたり、考えを深めたりすることができるようにする。 ・すれ違いは、どちらか一方に原因があるのではなく、両方に足りない気持ちや配慮があることを捉えられるようにする。 □異なる考えや意見をもつ者同士が互いに尊重し合うことは、広がりや深まりのある人間関係を築くために欠かせないものだと思われ、理解し、広い心で意見や立場を尊重することが大切だと考えている。(記述、発言)
終末	3 「つなげよう」を読み、相手の事情や気持ちを考えたり理解しようとしたりして、許すことにつなげていく。 4 今日の学びを振り返る。	・ねらいとする道徳的価値について、感じ方や考え方を深められるようにする。